文章の始まりが見えないときは下に少しスクロールしてください。

↓

ほしのや道と巡礼坂

県道瀬谷柏尾線の相鉄いずみ野線の高架下をくぐった先で阿久和川を渡る。

この橋を「新橋」という。「新橋」の地名はこの橋に因むものであろうが定かではない。

この橋を渡って左に進むとゆるやかな坂道となる。

土地の人は、この坂道を「ほしのや道」あるいは「巡礼坂」と呼んでいる。

「ほしのや道」の由来は南区の「弘明寺観音」と座間の「星谷（ほしのや）観音」を結ぶ巡礼街道という意である。

「弘明寺観音」も「ほしのや観音」も関東一円に点在する坂東三十三観音の一つである。

坂東三十三観音は鎌倉の杉本寺を一番札所とし逗子の岩殿寺（二番）・鎌倉の安養院（三番）・長谷寺（四番）・小田原の勝福寺（五番・飯泉観音）・厚木の長谷寺（六番・飯山観音）・平塚市の光明寺（七番・金目観音）・座間の星谷寺（八番・ほしのや観音）・南区の弘明寺（十四番・ぐみょうじ観音）と県内に９所ある。

白装束に手甲・脚絆・金剛杖といういでたちの巡礼の極め付けは「四国八十八か所」であるが、ほかにも、この坂東三十三観音・秩父三十四観音・西国三十三所などいまでも熱心なファン？がたくさんいるようである。

巡礼というのは、これらの霊地を巡る信仰の旅であり、別名「札所巡り」ともいう。

一番札所から数字の順に巡る場合には「順礼」ともいい、ランダムに巡るのを「巡礼」ともいうらしい。

この巡礼という札所巡りは古くは鎌倉時代から始まったといわれているが最も盛んになったのは江戸時代中期ごろだといわれている。

巡礼は本来願掛けとか納札とかの信仰色が濃いものであるが、次第に物見遊山という娯楽的要素が加わり、札所・霊場は一つの観光資源的な場ともなりつつある。

巡礼とは異なるが、いつぞや触れた「お伊勢参り」や「金毘羅参り」「富士講」「大山講」「江の島詣で」などの霊場参拝も信仰を兼ね備えてはいるものの、たぶんに物見遊山の娯楽的なものになっていることも否めない。

私ミスターＫも信仰心は殆んど持ち合わせていないが、生意気に「御朱印帳」なるものを数冊持っていて旅行などでは行く先々で、金300円なりをご奉納ないしお布施をしてご朱印を頂いている。

ところでもう一方の「巡礼坂」であるが、こちらは新橋辺りの伝説に基づくものである。

戸塚区郷土誌（戸塚区観光協会発行）の記述をそのまま拝借すると、

「昔は信仰をもった巡礼たちが、寺から寺を回っていた。ちょうど瀬

谷の妙光寺から、藤沢の遊行寺にと急ぐ一人の女巡礼がいた。坂にさしかかったときのことである。

向うから馬に乗った安藤治右衛門が心せかしく此方に向かって馬を走らせて来、巡礼に近づくや、見る間に手に入れたばかりの新しい刀でばさりとためし切りをしてしまった。これを知った土地の住人豊右衛門は可哀そうな巡礼をねんごろに葬ったが、いつかこのことを知った人は坂を巡礼坂と名つけ、また豊右衛門のけなげな姿に感動して、とよみ坂とよぶようになったという」

いずれ触れるが、安藤治右衛門とは江戸時代初期の徳川幕府直参旗本で代々治右衛門を名乗り阿久和の地を知行していた。

それにしても、ためし切りと称して女巡礼をバッサリとはずい分物騒な時代があったものである。

この巡礼坂の確かな場所は不明であるが、たぶん「新橋小学校」の前辺りかと思われる。